



# 地域医療連携室だより

## かながわこども医療ネット

神奈川県立こども医療センター 医療情報公開システム

「かながわこども医療ネット」は連携先の医療機関に、こども医療センターの電子カルテ情報(処方歴、注射歴、検査結果、画像)をインターネット経由で公開するシステムです。

### かながわこども医療ネットイメージ



○連携先医療機関を随時受け付けています。申込みは地域医療連携室までご連絡下さい。  
○閲覧にはネットワークの連携患者さんの同意が必要になります。

### 【紹介予約受診システム】



※ 紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。  
※ 紹介状用紙(料金受取人紙)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

### 【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

まずは、かかりつけの医療機関、休日急患診療所や夜間急病センター等で受診していただき、必要に応じて医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください。医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をして下さい。  
※ 事前にご連絡をいただけない場合、受診出来ないことがありますので、ご注意ください。  
※ 救急外来の診療は担当医ではなく、救急外来担当医が行う場合もあります。



### 誰もが知ってほしい「緩和ケア」

緩和ケア普及室室長 兼 麻酔科医師 堀木 としみ



2006年にがん対策基本法が成立、その翌年がん対策推進計画が策定され、日本の緩和ケア発展期が始まりました。このような歴史のためか、「緩和ケア＝がん患者対象」というイメージが強いのだと思います。2002年WHOは「緩和ケアは生命を脅かす疾患すべてが対象である」ことを発表し、さらに2018年には「緩和ケアは世界のどこでも誰でも受けられる最低限の医療」であり「すべての医師が勉強しなければいけない分野」と捉え方が変わってきました。

それでは、小児の緩和ケアはどうでしょうか。1997年に英国小児緩和ケア協会、英国小児科学会は小児緩和ケアを、「生命を制限する病気と共に生きるこどもと若者のための緩和ケアとは、身体的、情緒的、社会的、スピリチュアルな要素を含む全人的かつ積極的な取り組みである。そしてそれは子どもたちのQOL(生活の質)の向上と家族のサポートに焦点を当て、苦痛を与える症状の緩和、レスパイトケア、看取りのケア、死別後のケアの提供を含むものである。」と定義しました。このように緩和ケアの理念は成人も小児も大きな違いはないのですが、違う点は心身が発達の途上であることから薬剤投与量、薬物代謝などに影響を及ぼすこと、病気や年齢によって発達レベルが様々であるため、個々の発達に応じたコミュニケーションが求められることが挙げられます。また家族の役割・負担・困難が大きく、とりわけ親の役割は重大なものとなります。きょうだいがいればその子たちのケアも必要になります。先に挙げた定義にある「社会的な要素」には病院、家庭、学校など発達に応じた社会があり、関わる職種は医師、看護師、教師、保育士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士と実に様々です。病気の子どもたちや家族が、病院でも家庭でも継続した緩和ケアを受けることができるように、病院と地域との連携が必要になります。

「緩和ケア」を知り、「緩和ケア」を意識し、病院と地域が協働することにより、小児緩和ケアの普及へと繋がればと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 緩和ケアサポートチームの取り組み 「すべての子どもと家族に笑顔を」

緩和ケア普及室専従看護師 兼 小児看護専門看護師 村上 寿江



当センター緩和ケアサポートチームは、2008年に活動を開始しました。現在は、医師（麻酔科、児童思春期精神科、血液腫瘍科、総合診療科、新生児科）、看護師（小児看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、小児がん相談支援室相談員）、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、ファシリテイドッグ、ハンドラーの13名と1頭で構成された多職種チームで活動しています。

当センターでは、緩和ケアの対象となる疾患の種類や時期を問わず、当センターを利用するすべての子どもと家族のあらゆる苦痛を緩和することを理念としています。これから生まれてくる子どもも含めた子どもと家族のQOL（生活の質）を維持・改善し、「その人らしい」生き方のサポートをすること、さらにケアを提供する医療者である私たちも緩和ケアの対象としていることが特徴です。

そのため、相談・依頼内容は様々ですが、がん性疼痛、術後疼痛、慢性疼痛等の疼痛緩和が半数以上を占めています。その他、処置や検査に伴う苦痛緩和、子どもと家族の意思決定支援、きょうだいも含めた家族ケア等に関する相談・依頼があります。現場のチームからいただいた相談・依頼内容は、毎週チームカンファレンスを開催し、多職種それぞれの専門性を活か

し、客観的かつ広い視野で状況をアセスメントし、現場のチームと一緒に考え、よりよいケアの提供を行っています。また、週1回のチームメンバーによる院内ラウンドでは、相談しやすいチームを目指し、子どもと家族が抱えている苦痛やその関わりを通してのスタッフの困難感はないか情報収集し、対応策の提案を行っています。

緩和ケアサポートチームでは、小児緩和ケアに関して、職員のみならず、登録医療機関の方々を対象とした啓発活動も行っており、その一つとして、小児緩和ケアセミナー（4回/年）を企画しています。今年度も別表の開催を予定しております。地域の皆様にもご参加いただき、小児緩和ケアに関して一緒に考える機会にできればと思います。



緩和ケアサポートチームのメンバー  
2021年度撮影



## 「アニーと緩和ケア」

ハンドラー 森田 優子

初代ファシリテイドッグ「ベイリー」の時から、緩和ケアチームの一員に加えていただいています。アニーは2代目になります。

アニーは日々、患者である子ども達自らの頑張る力を引き出せるよう、介入しています。検査や手術も、アニーと一緒に頑張れると言うお子さんも多いです。ベッドで添い寝をすることで、「痛み止めはいらないや。」と言う子。「アニーが一番の吐き気止めだよ。」と言う子もいます。

アニーは病気を治すことはできません。でも、入院生活の中に楽しみができたり、怖い検査、痛い処置と一緒に立ち向かう力添えができたかと思っています。

チーム医療の中でファシリテイドッグならではの力を発揮し、患者さんの力になれるようこれからも頑張ります！



## 2022年度 小児緩和ケアセミナー開催予定

	開催日	テーマ	講師
第44回	7月19日 (火) *開催終了	がん以外の疾患をもつ子どもたちに 緩和ケアを届けるために大切にしたいこと	余谷 暢之 医師 (成育医療研究センター 総合診療部 緩和ケア科 診療部長)
第45回	10月16日 (日)	きょうだい支援	湯浅 正太 医師 (亀田総合病院 小児科 部長)
第46回	11月29日 (火)	遺族外来(仮)	大西 秀樹 医師 (埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科 診療部長)
第47回	1月下旬	ご遺体管理(仮)	調整中

(詳細は当センターホームページをご覧ください)



## 2022年度上半期 退院・在宅医療支援室主催研修会 小児の在宅医療を支える支援者交流会

参加費 無料

日時	テーマ	講師	方法
2022年9月30日(金) 18:00~19:45	多職種のチームアプローチ	退院・在宅医療支援室室長 小児看護専門看護師 萩原綾子	オンライン (zoom)

(詳細や参加申し込みの方法などは当センターホームページをご覧ください)